２０２５年度宝塚市立光明小学校３年生環境体験学習報告（秋季編）

「生き物つながり探検隊」～宝塚自然の家～

記録　小西享子

日時	２０２５年１１月１１日（火）　９時３０分～１１時４０分　　天候　晴れ
場所	宝塚自然の家
目的	「生き物つながり隊」第２弾です。豊かな自然と里山を体験できる「宝塚自然の家」周辺を探索します。 ・どんな生き物がいるでしょう。草木や葉っぱ、実、昆虫など、見て、触れて、匂って、観察しましょう。 ・ギフチョウがとても減っていることから、生き物同士のつながりを考えましょう ・アリジゴクとアリの姿から、生きていくことの一生懸命さを実感しましょう・ ・歴史民俗資料館や体験学習室を見学し、昔の農家の暮らしに触れましょう。
児童	３年１組　２８名（欠席１名）　澤田先生　他３名
MNC スタッフ	総括・アリジゴクの話　高橋美　　ギフチョウの話　吉田 小山・木茂・鹿本・池田・森永啓・高山・樋口・小西　　（計 10 名）
スケジュール	8:30　宝塚駅集合　私有車に分乗　　9:30　児童集合　あいさつ 9:40　ギフチョウの話　　9:50　園内探検に出発 10:50　アカシア広場→森のキッチン　　11:10　アリジゴクの話 11:30　児童感想発表とまとめ　　11:40　昼食（森のキッチン）
ギフチョウの話	ギフチョウは日本だけに住み「春の女神」と言われている。食生となるカンアオイが減ってきて、ギフチョウの数も少なくなってきた。卵から幼虫、さなぎ、羽化する様子を写真や表にして説明した。６月から翌年の４月まではさなぎで過ごし、冬越し中のさなぎを見せてもらった。宝塚自然の家ではギフチョウを毎年大切に育てている。
園内体験	２グループに分かれて見学した。歴史民俗資料館では、かまどや稲作に使った唐箕に興味を示し、民家に上がって昔の箪笥や囲炉裏を観察する子もいた。天文台ハレーロボの周辺ではいつもあるアリジゴクが１つしかなかった。しかし、森のキッチンではいつも通りアリジゴクがたくさんあり、ツチグリやキノコや木の実を見つけたり、松の葉に触って感触を確かめたりしていた。アキアカネ・イナゴ・カエル・コオロギ・クリなど沢山の秋を見つけることができたようである。アカシア広場では、ウスバカゲロウも網で捕獲することができた。
アリジゴクの話	紙芝居を始める前に先ほど観察した”アリジゴク“は、ウスバカゲロウの幼虫であることを知らせる。ペープサートのウスバカゲロウや幼虫、エサとなるアリを使って、巧妙な巣作り・エサの取り方など読み進めていく。長い年月を土の中で過ごすが、成虫になると数週間の間に卵を産んだりほかの生きもののエサとなったりする。「食べる・食べられる」というつながりの中で、自然を守ってくれている大切な命の一つであることを伝えた。
児童の感想	・アリジゴクが２年～３年で羽が生えることや、後ろ向きに歩くこと知らなかった。 ・アリジゴクが毒を持っている事を知らなかった。 ・アカマツとクロマツの葉の違いが分かった。 ・ギフチョウやアリジゴクの事が分かった。
所感	生き物や秋の木の実やキノコなど、自然が大好きな子供達。スタッフの話もギフチョウやアリジゴクの話も集中して聞いていて、とても充実した楽しい時間が過ごせた。到着時刻が遅れたが、園内探検やアリジゴクの話などで時間を調整しほぼ時間内に終えることができた。

ギフチョウの産卵と生まれた卵の説明。

宝塚自然の家で大切に育てているサナギを見せてもらいました。

散策の途中にクリのいがを見つけたよ。

ナメクジがキノコを食べている所です。よく見つけましたね。

歴史民俗資料館の中には昔の人の暮らしがわかりました。

茅葺きの屋根にイオウゴケ（モンローリップ）の可愛い赤色。

キノコや木の実や沢山の秋を見つけました。

アカシア広場では、イナゴやウスバカゲロウを捕まえました。

アカシア広場で沢山のツチグリ。煙（胞子）を出します。

アリジゴクの巣が沢山ありました。この巣の中にアリジゴクが隠れています。

森のキッチンで、アリジゴクの紙芝居を見ました。

アリとアリジゴクの壮絶な戦いの様子を、ペープサートを使って分かり易く説明しました。